私と都市づくり

東京都台東区役所 都市づくり部長　伴　宣久

１．はじめに

私は、武蔵工業大学建築学科５６年卒の伴と言います。緑土緑会の皆様、この度は緑土会の会員でもない、建築屋の私に、文章を投稿する機会を与えてくださりありがとうございます。この場をお借りして私の思うままに書かせていただきたいと思います。

私は、武蔵工業大学で、建築学科建築設備を専攻し昭和５６年に、卒業と同時に空調設備会社に就職しました。しかしながら、現場仕事に馴染めず一年で退職してしまいました。当時、親友が東京都に勤務している縁もあり昭和５８年に台東区に再就職しました。当時、区での建築職の仕事は、二択で営繕か、建築行政しか無く、私は迷いなく営繕課を選択しました。営繕課でいろいろな施設建設、改修工事の担当をさせていただき、１０年ほど経過し資格も取得し独り立ちできたかなと思っておりました。そこで、昇任試験と言う新たな障害にぶち当たりました。私は、恥ずかしながら、３回連続してこの試験に落ちました。自分に人生の中で、こんなに何回も試験に落ちた経験もありませんでしたのでとても落ち込んだのを今でも鮮明に覚えています。流石に、４度目の挑戦の時には、今度だめならもう時間の無駄だから、昇任はあきらめようと思いました。

２．転機

そんなわけで、主任試験で失った自信を回復するには何か特別なチャレンジしないと一生、浮かばれないと思っていたところ、たまたま目についた区の海外派遣研修に応募することにしてみました。この制度は、職員の海外派遣研修は、二週間程度の短期と半年以上の長期研修に分かれていて、短期は毎年、４～５人程度で、旅行社の用意するパッケージになった視察旅行に乗るかたちで、長期は毎年、１名程度、自分でテーマを選び、企画、調整もすべて自分でやることになっていました。希望者には、英語の筆記の選考試験がありましたが、幸い英語は学生時代からの得意科目で、幸運にも試験に受かりました。これがすべてのチャレンジの始まりでした。それは、この研修の効果に懐疑的だった当時の助役が、「唯の研修じゃない、働いてこい！！英語の通じないところがいい！！」とのご指示を人事課経由で頂きました。これには自分も驚きましたし、今までの私なら辞退をしたかもしれません。自分の能力どこまで通用するか、ここで頑張ってみよう！英国大使館、国の外郭団体、知人、友人あらゆる方法を使い、自分自身で自分の研修プログラムを組みたてました。研修テーマは、「建築物の保全とリサイクル」で研修場所は、英国のロンドン南部のクロイドン市、ウエールズに近い、英語の風呂の語源にもなっているバース市、そしてグロースター市と決めることができました。

３．海外研修

１９９４年の６月、ウインブルドンのテニス大会最中の一人、７か月の予定でイギリスに飛び立っていきました。生活の拠点はロンドンから電車で二時間ほどのブリストルに置きました。

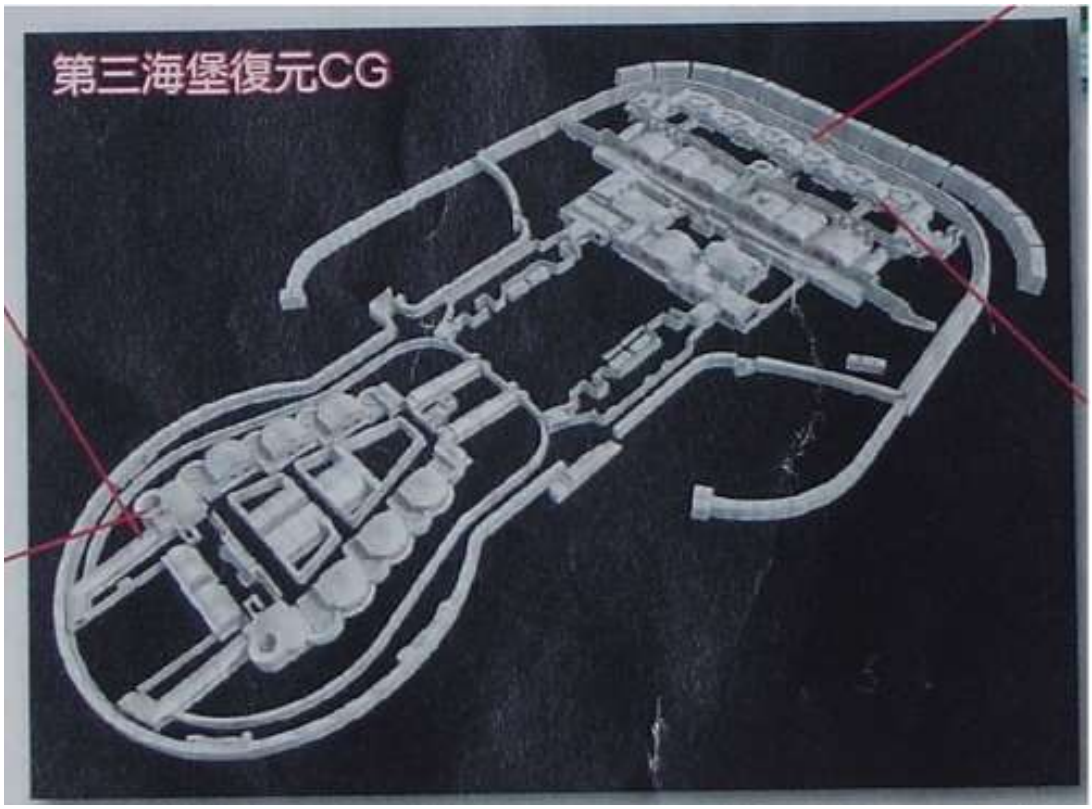
ここでまず、英会話力の向上と現地の生活になれるために、英語学校入りました。住む場所も経費削減のために英語学校で紹介してくれた下宿にしました。この下宿には、は９人の英語学校に行く年齢も様々な男女の外国人が滞在していていました。新婚旅行に次ぐ、二度目の海外でしたが、毎日の生活、見るもの見るもの珍しくて、あっという間に３か月が過ぎて行きました。この間、一緒に飲んだり、旅行したりした多くの友人ができ英国生活を満喫する共に生活の基盤ができました。その後の自治体の研修では、議会の傍聴や、開発プロジェクトの会議にも出席さて頂たり、現地職員の方とも様々な交流ができ、日本の自治体との違いを肌で感じることができました。研修の最終ステージは、一か月半の鉄道を使ったヨーロッパの先進都市づくりの視察です。ブルッセル、オランダ、ドイツ、イタリア、スイス、スペイン、フランスと視察して回りました。研修中、日本の情報はほとんど入って来ず、神戸の大震災を知ったのは、バルセロナの日本料理店でした。この海外研修では様々な場所で、いろいろな経験を積むことができ、後の仕事で役立っていることは言うまでもありません。

４．祖父

緑土会の会報ですので、土木技術者だった私の祖父について書かせてください。

私の祖父は、伴宜（ばん・よろし）と言い、私が生まれた時にはもう他界しておりましたし、父も私が５歳の時に他界しておりますので、祖父については、ほとんど知りませんでした。祖父について詳しく知ったのは、役所の課長になった十数年前のことです。区内のコンサルタントが、祖父について聞きたいとのことで、私の職場に尋ねてきました。コンサルの担当者は、国土交通省の依頼で、横須賀沖にある第三海堡の事を調べており親族から聞き取りをしているとのことでした。

その当時、私も初めて知ったのですが、海堡とは、火器、居住スペースを備えた海上の人工の要塞で、祖父は、陸軍の土木技師としてこの建設に従事したそうです。現地の、水深は、４０メートルで、祖父は海保を構築するための最新技術を学びに、ロッテルダムにケーソン工法を視察に行った記録も残っていたそうです。



残念ながら完成まじか、関東大震災により支持層の砂質地盤が液状化して崩壊してしまったそうです。その後、半世紀以上も放置されましたが、航行する船の支障になることから、国土交通省で撤去することになり、撤去に先立ち行われた調査で祖父の事を調べ上げたそうです。その後、ネット等で祖父の事を調べると、青島の簡易水道や山形の赤湯温泉で簡易水道を建設した記録が見つかりました。退役後は、東京府の土木部長になり震災復興橋である千住大橋の設計、監督をした記録が残っています。祖父の書いた論文等も国会図書館等で見ることもでき、技術者としての祖父を身近に感じると共に私にもその DNA が流れていると思うと誇らしく思いました。

５．都市づくり

私の勤める東京都台東区は、23 特別区で最小の区です。

上野・浅草といった多くの来街者が世界から、お見えになります。都市計画的には、区の 7 割近くが商業地域です。谷中、根岸と言った地域に住居系地域が残っています。道路率は、３０％近くあり、都市計画道路についてもほとんどなく、基盤が整っています。

これは、関東大震災、その後の震災復興区画整理で、今の商業地域の骨格ができました。上野公園周辺、谷中を除きほとんど、高低差の無い地域が広がっています。大きな宅地もほとんどありません。ので、残念ながら、法定都市再開発が一件もありません。

そんな中、平成１９年度にまちづくり推進課長になり、それ以来、区の都市づくりに係っております。具体的には、浅草六区の地区計画、御徒町の地区計画、を担当するとともに、台東区景観計画の策定も行ってきました。浅草六区の地区計画では、街並み誘導型の地区計画を決定したために、高さの制限を何ｍにするかで、浅草寺さんの五重塔の高さの５３ｍに設定しました。その結果と浅草寺さんと対立することになり、マスコミの取材を受けたりしました。また、御徒町の地区計画では、JR 御徒町駅前で減歩がゼロの敷地整序型の区画整理を実施しました。既存道路の付け替えをめぐり、地元住民、警視庁協議、議会対応でも相当難航しましたが無事に事業終了し、現在は、御徒町パンダ広場として供用しております。

国土交通省で大街区化の先行事例として紹介されています。今は、これらのまちづくりの成果が、見え始め、街のにぎわいや、活気がとりもどされ、頑張って良かったなと思っています。

５．最後の挑戦

私は、これまでの人生の節目で、自分に目標をもうけ頑張ってきました。最後の目標それは、後輩たちに、台東区の今後の都市づくりの明確なレールを引くことです。この１０年、なんとか、目の前の課題を克服して区の都市づくりを進めてきましたが、自分の中で、将来の台東区のまちづくりを考えるには、都市計画についてきちんと勉強すると言う問題意識のもと、武蔵でお世話になった先生が首都大学東京で教鞭をとられていたことを契機に、2014 年に社会人として首都大学東京大学院博士課程に入学することになりました。

特別区に於いては、国、東京都、さらに特別区の都市計画の決定権限が分れており、地方分権の中で、国際都市東京都の実現のためにそれぞれの団体がどう都市政策を展開すべきか、と言うことをテーマにしており、最終的には博士号を取得することが目的です。

学校に通い勉強しながら、都市計画マスタープランの改定や上野駅周辺のまちおづくりビジョンの計画を進めており、区内各地で都市づくりの種を植えてきました。現在は、退職後の人生についても考え始めていますが、役所に残って、後輩のお手伝いをすることや、学生に都市づくりを教える立場も魅力的です。

また、海外の仕事のお手伝いができたらいいなと思ったりもします。まだまだ、現役で都市づくりにかかわっていきたいと思う今日この頃です。